

神話スライドset シリーズ

ユニコーン

スライド枚数 : 19枚
時間 : 6分04秒
イラスト : 塚田 洋子 高部 哲也
ナレーション : 山崎 和佳奈

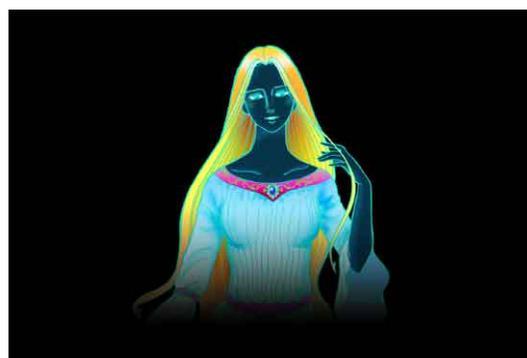
LIBRA CORPORATION

+音始まり



1. むかしむかし、ブリュッセラーデの森の近くに、ポロンという王様が治める小さな国がありました。

ポロンは、他人を決して信用しない疑り深い性格で、何かと戦争をしかけるので、近くの国々や、自分の国の国民からも嫌われていました。



2. そんな彼が、唯一愛したのは、彼の娘である王女テレーゼだけ。

美しく清らかな心をもった乙女、テレーゼ。
ポロンがどんなにひどい王であろうと、国民が我慢していたのは、彼女の微笑みのおかげだったのです。



3. ある日のこと、森にユニコーンが現れた、といううわさが広まりました。

ポロンに苦しめられていた人々は「これで、このひどい暮らしから抜け出せる！」と喜びました。



4. そう、昔からこの国の人々にとって
ユニコーンの出現は悪い政治から逃れられる兆し
だったので。



5. そんなこととは露知らず、ポロンは、
ユニコーンを捕まえて権力に利用することを考えま
した。



6. ユニコーンの角にはそれだけの魔力があると信じ
られていたのです。
しかし、力づくではどうにもなりません。
ユニコーンが、心を許すのは純真な心を持った乙女
だけだと、言われていたからです。
そこで、ポロンは一計を案じました。



7. 「ユニコーンを目見たいだけだ」と、父親に頼
み込まれて出かけたものの、大勢のお供がいること
を不思議に思ったテレゼは

「なぜ、こんなにたくさんの兵士が必要なのですか？」
と問いかけました。
そんな娘にポロンは、
「私とおまえの身を守るためだよ」
とうそびきました。



8. そして、娘を一人残して、自分は大勢の兵士とともに、木々に身を隠したのです。

やがて、月が昇り、あたりがやわらかい光に包まれた頃……。



9. SE きらめき

ひととき鋭い銀色の輝きが森を貫きました。

ユニコーンです。

驚きの叫びを必死で飲み込むテレーゼ。

ユニコーンは、そんな彼女をじっと、みつめています。



10. どれくらいの時が過ぎたのでしょうか。

ユニコーンが、テレーゼに近づいてきました。



11. そして、テレーゼの心に一点の曇りもないことを悟り、彼女のひざを枕に静かにその身を横たえたのです。

5～6

+音変わり



12.

SE 怒号 ひずめの音

と、突然、森の静寂は荒々しいひずめの音で破られました。

ユニコーンに無数の縄が掛けられました。

ユニコーンの絶望と恐怖の雄たけび。



13. その時、自分がユニコーンを捉えるための罠であつたことを悟ったテレーゼは

「私を先に殺して！

あんなにも気高い信頼を裏切って、生きていくことはできません」

そう叫びながら、その身を盾にしてユニコーンを守ろうとしました。



14. 「どけ！テレーゼ！」

猛烈に怒ったボロンは、テレーゼに当たるのもかわわず、剣を振り上げました。

「おとうさま！」

+音終わり



15.

SE カシャン (剣が地面に落ちる音)

その時、ようやく彼は、自分が何をしようとしているのかに気づきました。

世界でただ一人の大切な娘を失う瀬戸際で…



16. ポロンは、地面に剣を投げ捨て、崩れるように倒れこみ、恥ずかしさと後悔にすすり泣きました。



17. 「ごめんなさい。お父様を許して」
必死で、許しを請うテレーゼを、ユニコーンは静かに見つめて…。

SE きらめき

突然、姿を消したのです。
現れたときと同じように、
銀色のきらめきを残して…

その夜からポロンは、国民に慕われる王に生まれ変わりました。
やはりユニコーンの出現は、悪い時代の終わりを告げていたのだ、と人々はうわさしました。



18. そして、何十年という月日が流れ、ポロンが臨終を迎えた時、再び、ユニコーンが姿をあらわしました。
そのとき、王の死を悼むように角は銀色の光できらめいて…。

SE きらめき

+音終わり